

「ソーラーカーレース 全国2位」

(堺工科高校 亀平校長先生からのご寄稿です。)

8月3日(土)に鈴鹿サーキットにて行われた、「ソーラーカーレース鈴鹿 2013」において、エンジョイ I クラスで本校ソーラーカーが第2位に入賞しました。創部20年で初めて表彰台に立つことができたことは、これまでの本校ソーラーカー部の地道な活動の成果だと思います。本校ソーラーカー部は部員12名で活動しており、OB達が忙しい仕事の合間を縫って細やかな指導を行ってくれています。

現在のソーラーカーは、10年ほど前に製作されたフレームを基に改良を加え使用しています。昨年は、駆動モーターを新しい物に取り換えて参戦しましたが、サスペンションの老朽化が原因でタイヤがパンクしてしまい、残念な結果となっていました。その反省を基に、改良を施してのチャレンジでした。

本校ソーラーカー部は、創部当初より、生徒たちが自分で設計し製作に当たることを重視しています。そのため、他のチームのソーラーカーに比べて構造や材料は原始的な箇所が多く、外観は古いタイプのソーラーカーです。しかし、自分たちの力で作っただけに生徒は誇りを持っており、このソーラーカーは、彼らの自慢でした。また、そのソーラーカーを歴代の部員たちが改良を加えることで、年々仕上がりがよくなっています。彼らは卒業後も自分たちのソーラーカーに愛着があり、現役生へ熱心に指導や応援をしてくださいます。

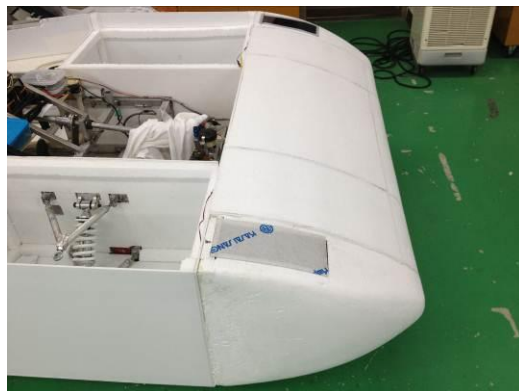
今年の改良点であるサスペンションの製作では、3年生の生徒が取り付け部品を一から設計し、削りだしてフレームに溶接するなど、高度な技術が必要とされるところを何度もやり直しをしながら改良を加えていきました。さらに、電気関係の配線を他の3年生が改良し、2年生と1年生はフロント部分を空気抵抗の少ないデザインに改良するなどの工夫を施しました。もちろん、このような改良は生徒たち自らの考えで行ったことで、それを実現するために日頃からOBや顧問の技術指導を受けていました。そうした工夫を積み重ねたことが、今回の結果につながったのだと思います。

現在のものづくり教育では、自らの考えを形にしてその成果まで出すといった経験は、大変貴重なものだと考えます。この貴重な体験ができた部員たちには、将来社会へ出て日本を代表するエンジニアに成長してほしいと願っています。

最後になりましたが、本校ソーラーカー部の活動にご支援、ご協力をいただいた方々に対し、心よりお礼申し上げます。



サスペンション部品を溶接している様子



フロント周りを改良



4時間耐久レースを参戦中



エンジョイ I クラス 2 位



堺工科ソーラーカーと部員達